

# 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団定款

## 第1章 総則

(名称)

**第1条** この法人は、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団と称する。

(事務所)

**第2条** この法人は、主たる事務所を沖縄県浦添市に置く。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

**第3条** この法人は、主として独立行政法人日本芸術文化振興会の委託を受けて国立劇場おきなわ等の施設において組踊等沖縄伝統芸能の公開等を行うとともに、併せて同施設の管理運営を行い、もって、組踊等沖縄伝統芸能の保存振興と伝統文化を通じたアジア・太平洋地域との交流に寄与することを目的とする。

(事業)

**第4条** この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 組踊等沖縄伝統芸能等の公開に関すること。
  - (2) 組踊の立方、地方の伝承者養成に関すること。
  - (3) 組踊等沖縄伝統芸能等に関する調査研究、資料収集・利用に関すること。
  - (4) 伝統文化を通じたアジア・太平洋地域との交流に関すること。
  - (5) 国立劇場おきなわの施設の管理運営及び劇場施設の利用に関すること。
  - (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は、沖縄県で行い、必要に応じて県外で行うものとする。

## 第3章 資産及び会計

(財産の種別)

**第5条** この法人の財産は、基本財産とその他の財産の2種類とする。

- 2 基本財産は、第4条の公益目的事業を行うために不可欠な財産として、次に掲げるものをもって構成する。
- (1) 公益法人移行時の財産目録中基本財産の部に記載された財産
  - (2) 基本財産として寄附された財産
  - (3) 理事会で基本財産に繰り入れることを決議した財産
- 3 その他の財産は、基本財産以外の財産とする。

(財産の管理及び運用)

**第6条** この法人の財産の管理・運用については、適切かつ効率的な取扱を旨として、理事長が行うものとする。

- 2 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を要する。

3 この定款に定めるもののほか、財産の管理・運用に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

(事業年度)

**第7条** この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

**第8条** この法人の事業計画書及び収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の議決を経て、評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

2 前項の書類については、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般に閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

**第9条** この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を得て、定時評議員会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第6号までの書類については承認を受けなければならない。また、毎事業年度経過後3箇月以内に、財産目録等を行政庁に提出しなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 正味財産増減計算書
- (5) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の書類のほか、次の書類を5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(公益目的取得財産残額の算定)

**第10条** 理事長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し前条第2項第4号の書類に記載するものとする。

(会計原則)

**第11条** この法人の会計は、一般に公正妥当と認められる公益法人の会計の慣行に従うものとする。

## 第4章 評議員

(評議員)

**第12条** この法人に評議員10名以上20名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

**第13条** 評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第179条から第195条の規定に従い、評議員会において行う。

2 評議員を選任する場合には、次の各号の要件をいずれも満たさなければならない。

(1) 各評議員について、次のイからへに該当する評議員合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること。

イ 当該評議員及びその配偶者又は3親等内の親族

ロ 当該評議員と婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者

ハ 当該評議員の使用人

ニ ロ又はハに揚げる者以外の者であって、当該評議員から受ける金銭その他の財産によって生計を維持しているもの

ホ ハ又はニに揚げる者の配偶者

ヘ ロからニまでに揚げる者の3親等以内の親族であって、これらの者と生計を一にするもの

(2) 他の同一団体（公益法人を除く）の次のイからニに該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること。

イ 理事

ロ 使用人

ハ 当該他の同一の団体の理事以外の役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、その代表者又管理人）又は業務を執行する社員であるもの

ニ 次に揚げる団体においてその職員（国会議員及び地方公共団体の議会の議員を除く。）であるもの

① 国の機関

② 地方公共団体

③ 独立行政法人通則法第2条第1項に規定する独立行政法人

④ 国立大学法人法第2条第1項に規定する国立大学法人又は同条第3項に規定する大学共同利用機関法人

⑤ 地方独立行政法人法第2条第1項に規定する地方独立行政法人

⑥ 特殊法人（特別の法律により特別の設置行為をもって設立された法人であつて、総務省設置法第4条第15号の規程の適用を受けるものをいう。）又は認可法人（特別の法律により設立され、かつ、その設立に関し行政官庁の許可を要する法人をいう。）

(任期)

**第14条** 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了するときまでとする。

3 評議員は、第12条に定める定足数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまでは、なお評議員としての権利義務を

有する。

(評議員に対する報酬等)

**第15条** 評議員に対して各年度の総額200,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

## 第5章 評議員会

(構成)

**第16条** 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

2 評議員会の議長は、評議員の中から互選によって定める。

(権限)

**第17条** 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任及び解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 評議員に対する報酬等の支給基準
- (4) 貸借対照表及び正味財産増減計算書
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分又は除外の承認
- (8) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款定められた事項

(種類及び開催)

**第18条** 評議員会は、定時評議員会として毎年度6月に1回開催するほか必要がある場合に開催する。

(招集)

**第19条** 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

**第20条** 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上にあたる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 評議員に対する報酬等の支給基準
- (3) 定款の変更
- (4) 基本財産の処分又は除外の承認
- (5) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第23条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまで

の者を選任することとする。

(議事録)

**第21条** 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び出席した評議員のうちから指名した2名並びに出席した理事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第6章 役員等

(会長)

**第22条** この法人に会長1名を置く。

2 会長は、次の職務を行う。

(1) 理事長の相談に応じること。

(2) 理事会から諮問された事項について参考意見を述べることができる。

3 会長の選任及び解任は、理事会において決議する。

4 会長の報酬等は、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を支給することができる。

5 会長は、必要に応じて評議員会等に出席できる。

(役員の種類及び定数)

**第23条** この法人に、次の役員等を置く。

(1) 理事 10名以上15名以内

(2) 監事 2名以内

2 理事のうち1名を理事長、1名を常務理事とする。

3 前項の理事長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とし、常務理事をもって同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

**第24条** 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

**第25条** 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人の業務執行の決定に参画する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。

3 常務理事は、理事長を補佐し、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

4 理事長及び常務理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

**第26条** 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

**第27条** 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了すべき時までとする。

4 理事又は監事は、第23条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

**第28条** 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(報酬等)

**第29条** 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

## 第7章 理事会

(構成)

**第30条** 理事会は、すべての理事をもって構成する。

2 理事会は、理事の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

(権限)

**第31条** 理事会は、次の職務を行う。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 理事長及び常務理事の選定及び解職

(4) 評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の決定

(5) 業務執行に関する規程の制定、変更及び廃止

(招集)

**第32条** 理事会は、理事長が招集する。

2 理事会の議長は、理事長とする。

3 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

**第33条** 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において準用する同法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

**第34条** 理事会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成する。  
2 出席した代表理事及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第8章 定款の変更及び解散等

(定款の変更)

**第35条** この定款は、評議員の決議によって変更することができる。  
2 前項の規定は、この定款の第3条、第4条及び第13条についても適用する。

(解散)

**第36条** この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由によって解散する。

(公益認定の取消に伴う贈与)

**第37条** この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により消滅する場合(その権利義務を継承する法人が公益法人であるときを除く。)には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消の日又は当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(残余財産の処分)

**第38条** この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(公告)

**第39条** この法人の公告は、当財団の主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

## 第9章 職員

(職員)

**第40条** この法人の事務を処理するため、必要な職員を置く。  
2 職員は、理事長が任免する。ただし、事務局長は理事会で選任及び解任する。  
3 職員は、有給とする。

## 第10章 賛助会員

(賛助会員)

**第41条** この法人に、賛助会員を置くことができる。  
2 賛助会員に関し必要な事項は、理事会の議決を経て理事長がこれを定める。

## 附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 一般財団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認

定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第7条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

- 3 この法人の最初の理事長は上原良幸とする。
- 4 この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。

襲田正徳

翁長雄志

島田精一

岸本正男

小島瓊禮

波照間永吉

湧川昌秀

山田節子（玉城節子）

藤田洋

徳村正吉（宮城能鳳）

富田詢一

湧川善充